

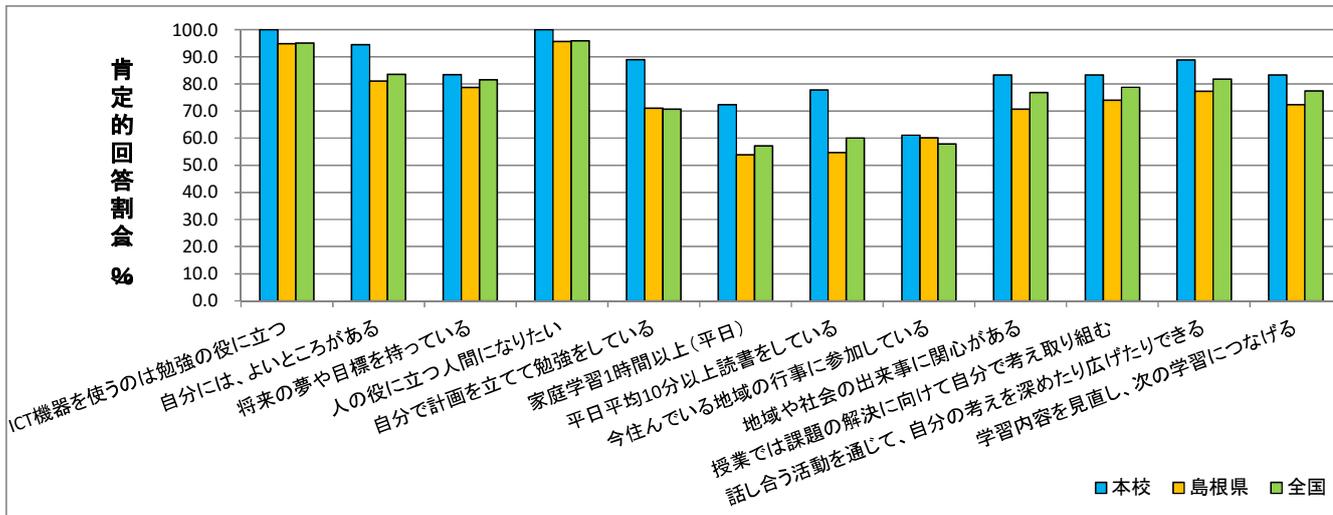
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○漢字の正答率が良いことから、月に1回行っている漢字大会の成果が出ていることが考えられる。 ○記述式の無回答率が、全国に比べて低いことから、自分の考えを持つ大切さを普段から指導している成果が出ている。 ●複数の資料から、問題を読み取って取捨選択する力が弱い。	・普段の読書等で長い文章に触れる機会を増やし、文章問題に慣れるようにする。 ・家庭学習や授業において、読んだ本のあらすじをまとめたり、字数制限を設けて要約したりする機会を設ける。
算数	○割り算の筆算における計算の意味について、正しく理解できている。 ○無解答率が低く、難しい問題に対してもすぐにあきらめず取り組もうとする意欲がある。 ●自分の考えた計算方法を順序立てて説明・記述することが苦手である。 ●図表や問題文を正しく読み取り、課題解決に必要な部分や数値を捉えることが苦手である。	・理由や数の処理の仕方を順序立てて説明する機会を積極的に設けるとともに、グループやペアでの対話や記述を通して説明・表現する機会を増やし、思考力や表現力を高めていく。 ・図や表などの資料を使い、根拠を明らかにして説明する場を算数だけでなく、他教科でも設ける。

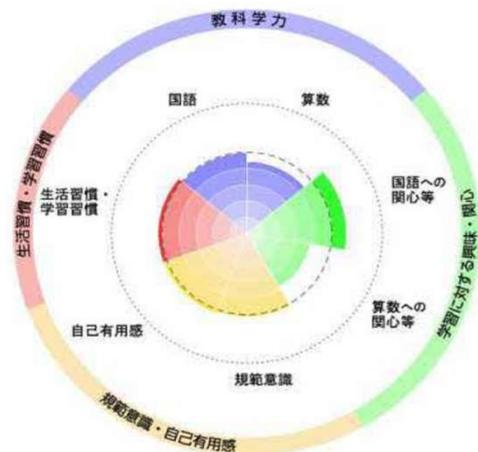
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○国語については、計画的でやる気が見える。授業において5,6年の担任が、児童が表現しやすい環境を作っている成果だと考えられる。 ●算数には苦手感があり、日常での必要性を感じておらず、否定的な意見が多い。 ●英語も算数と同様に苦手感があり、必要性を感じていない。	・算数に関しては、知識や方法だけではなく、多様な見方があることを体験し、順序立てて問題を解くといった、数学的な思考の面白さを実感させる授業を行う。 ・外国の方と交流をするなどの取組で、実際に自分が使った英語が通じたという達成感などを感じさせる取組をして、英語の必要性を持たせる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・児童自らが問題を見出し友達と協働して解決していく学習過程や学習形態を工夫し、児童が主体的で対話的に学びを深めていくことができるように授業改善を図っていく。
 ・ICTを効果的に活用した授業づくりを行っていくことで、主体的に課題を解決する態度や、対話を通して自らの学びを深めていく思考力・判断力・表現力を育ていく。

【受検者数】

18 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。